

平成 24 年度 地域社会保障教育推進事業 実施報告

本検討会で作成したワークシートの効果検証の意味も含め、社会保障教育の全国展開に向けた検討の基礎資料として活用するため、教育面で豊富なノウハウを持つ三事業者に委託して試行事業を実施した。

○授業実施期間

平成 24 年 10 月～25 年 3 月

○事業の趣旨・目的

- ・社会保障に関する子どもたちの理解を深めるための教育を実施するとともに、その結果を分析し、今後、社会保障教育の全国展開に向けた検討の基礎資料として活用する。
- ・講義形式による授業のみでなく、体験学習形式による授業も併せて実施し、それぞれのより効果的な実施方法、効果的な連携方法を検討する。

○実施校一覧（計 14 校）

	学校名	対象学年	充当教科	講義担当	体験学習
(株) 東京リーガルマインド	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校	2 年	LHR	社労士	(訪問) 介護福祉施設
	私立明蓬館高等学校	混合	家庭総合他		(訪問) 介護福祉施設
	私立ルネサンス高等学校	混合	家庭総合他		(訪問) 介護福祉施設
	東京都立竹台高等学校	2 年	政経、LHR		(訪問) 介護福祉施設
(株) 放送映画制作所	東京都立蒲田高等学校	2 年	現社	教師	(訪問) 介護福祉施設
	東京都立足立新田高等学校	3 年	家庭科		(出前) 社会福祉士、看護師
	大阪府立茨木西高等学校	3 年	家庭科		(出前) 介護福祉士
全国社会保障労務士会連合会	福島県立長沼高等学校	3 年	LHR、総合学習	社労士	(出前) 年金事務所、ハローワーク
	船橋市立船橋高等学校	3 年	課題研究、総合実践		(訪問) 年金事務所
	私立日本大学豊山高等学校	2・1 年	政治経済、倫理、社会		(出前) 年金事務所
	愛知県立佐屋高等学校	3 年	総合学習		(出前) 病院
	神戸市立摩耶兵庫高等学校	1 年	総合学習		(訪問) 年金事務所
	私立聖カタリナ女子高等学校	3 年	総合学習		(訪問) 街角の年金相談センター
私立福岡舞鶴高等学校	2 年	公民	(訪問) 年金事務所		

○社会保障教育の全国展開・定着に向けた現状の課題・提案等について（3事業者報告書より）

	現状の課題等	提案等
1. 授業時間の確保	・ <u>現状で割ける時間数は2～3コマが限度。</u>	・ 時間数が限られていることから、制度内容よりは支え合うということの大切さ（核心的な部分）を伝えることが重要。
2. 教材（厚労省のワークシート等）	・ 内容は良いが、 <u>分量が多くレベルが高い。消化困難。</u> ・ <u>字のフォントが小さく、記入の仕方が生徒から見ると書きづらい。</u> ・ 教材のアレンジの仕方が課題。	・ 20分程度のもを複数作成した方が活用しやすい。 ・ <u>発達段階・レベル別のものが必要。</u> ・ 字体を大きく、レイアウトに工夫を。 ・ 身近な具体例から入るもの、学習のきっかけ・導入となる教材（映像教材等）が必要。
3. 授業の進め方	・ 授業担当者の選択（外部講師のメリット・デメリット） ・ 体験学習と講義・グループワークとの内容の断絶（相互に連携した内容となりにくい）	・ 生徒に身近に感じてもらう工夫（政府の歳入・歳出を小遣いに例える、クイズ形式、実物（健康保険証、給与明細）を使用する等） ・ 生徒の将来に役立つ内容であると感じさせる工夫（社会に出てからの心がまえ、年金学生納付特例等）
4. 体験学習	・ <u>有効だが、受入先確保や時間確保（移動時間）が困難。</u>	・ 身近な資源の活用（体に重りをつける、車いす体験等） ・ 施設体験にかかわらず、出前授業等を検討。
5. その他	・ 社会保障に関する授業は公民だけでなく、家庭科や保健体育でも行われているが、教科間連携・分担が不十分。	・ 社会保障制度の理解は国民課題であるという共通認識を持つための取組が必要（教師や教育関係機関、地方自治体等へのアナウンス、マスコミへのPR） ・ <u>教師向けの研修や資料提供（指導書・マニュアル等）も必要。</u>

※下線部分は、複数事業者の意見。